

伝え合い 学び合う 佐古の子

さくらだより

【本年度の重点目標】
学校生活の基盤を整える

令和5年4月27日 No.5 校長だより

書くことは思考すること

■今年度も、高知新聞「こども記者」に全校児童を登録しました。こども記者になって、学校や地域、身の回りの出来事を記事にする活動を行っています。記事の他にイラストや写真を送ることもできます。子供たちが書いた記事や作品を新聞社に送り、選ばれた作品が高知新聞に掲載されます。

今年度になって掲載された記事とイラストを紹介します。

■小学校教育の第一人者で「陰山メソッド」によって学力向上を実現してきた陰山英男先生が、「書くことは思考であり、書くことによって、初めて本格的に脳は動く」と話しています。また、「国際的な学力とは、単に何かを覚えている・知っているというだけではなく、それらを活用して論理をくみ上げ、自分の考えをはっきりと言葉にし、それをもとに行動していくことが問われていくのです。そうした力は、しっかり書くことによって形成されると考えています。そして、書かれたことをまとめていくためには、スピーチのように、短時間で自分の思っていることをきちんと言葉にして表現できる力が大切です。」ともお話をされています。

技術はすごいけど

松井 悠祐翔

香南市佐古小6年

ぼくは、テクノロジーの進歩に反対です。理由はロボットに全てたよっている人は、成長が止まってしまうから。それにネットにたよるすぎると、自分では考えることができなくなるから。でも、「テクノロジーに任せたらくらしが楽になる」といいます。

わけて、ちょっと納得しました。地震が起きて、人がすぐに来て助けてくれる。ネットにたよれば便利だな、と思う。何にでも自分で考えて挑戦し知識を頭に入れるほうがいい、と思います。

ライオンやSNSなど、便利な機能もあります。コンピュータを使った脳トレもできて、自分で生きていくほうがいい、とぼくは思います。

なぜそう思うのか、自分が考えた理由がきちんと書けていてすばらしいですね。



みんなでたんけん

坂本杏莉さん

(香南市・佐古小2年)

高知新聞 4月19日掲載

■きちんと書けること、きちんと話せること。このことで自分の意思を他者にしっかりと伝えることができます。これは、基本中の基本となることです。「書く・話す」といった学習の基盤となる学びの基礎力をつけていくことを大事に、学校全体で工夫をしながら取り組んでいきたいと考えています。

高知新聞4月6日掲載